



アオウミガメとの海中散歩 Yakushima May 2016

優雅に泳ぐ。どれくらい一緒に泳いでくれたらどうか。やがてアオウミガメは、速度を上げて彼方へと泳ぎ去った。

ダイビングを始めて6年。これまでにバリ島、オアフ島、グレートバリアリーフ、石垣島、沖縄本島など各地の海に潜ったが、ウミガメと一緒に泳いだのは初めての経験だった。

他の海では、ウミガメは人間に遭遇すると慌てて逃げていくそうだ。そう言えば、5年前にオアフ島のノースショアで、ウミガメが上陸するという海岸を訪ねた際、大勢のギャラリーが見守る中、カメが姿を見せるや否や、どこからかボランティアが飛び出してきて、あつという間に周囲にロープを張り巡らした。数年前に、浦島太郎ながらウミガメの背にまたがり、写真を撮ろうとした日本人が逮捕されたのがきっかけで、そのような措置が取られるようになったとの噂を聞き、ロープ越しにウミガメを眺めながら、恥

ずかしく情けない気持ちになった。

屋久島で出会ったアオウミガメが人を恐れないのはなぜだろう。おそらく、これまで人間から嫌なことをされた経験がなく、危害を加える相手と認識していないからだろう。

昭和3年生まれのお母は、子どもの頃、須磨海岸で産卵するウミガメの姿を、近所の子どもたちと一緒に何度も見たと話していた。「砂浜に大きな穴を掘って、小さな卵をたくさん産むんよ。2カ月ほどしたら赤ちゃんガメが生まれてくるんやけど、鳥に狙われて、海へ帰れる子はわずか。厳しい自然の中で無事に育ったカメさんだから、浜で見つけても大事にしてあげなあかんねんよ」

屋久島の永田浜という地域は、世界有数のアカウミガメとアオウミガメの産卵地だと聞いた。私もいつの日か、ウミガメの産卵を見に、屋久島の海をもう一度訪ねたいと思う。

# ココロにサプリ

広報メディア研究所代表 上野 弘子

第124回

ウミガメの島



水深6メートルほどの浅い岩礁を、ゆっくりと進む。

下方に目をやると、屋久島の豊かな海の中には、色も形も様々なサンゴやインゲンチャク、名前も知らない海の生き物

が岩の表面を鮮やかに彩っている。

ヒマワリの花のようにポリプを開いているイボヤギ(サンゴ)を、そっと手で触ると、驚いたようにキュッとしぼむ。楽しくて何度も試したくなる。小さくくぼんだ岩陰では、大きなシライトイソギンチャクの、ゆらゆら揺れる触手の間をカクレクマノミが忙しそうに出入り入りしている。「黒い小さいのは赤ちゃん」と書いた白板を、インスタラクターが見せてくれる。稚魚には、あのオレンジと白のボーダー模様がまだなく、地味な印象だ。敵から身を守るためののだろうか。

突然、インスタラクターが興奮気味に前方を指さした。

1匹のアオウミガメが、明るく澄んだエメラルドの海の中を泰然と泳いでいる。岩についた海藻を食べるため、浅い岩礁にやってきたのだ。私たちの存在に気づいても、動じる様子は全くない。むしろ「さあ、ついておいで、一緒に泳ごうよ」と言わんばかりに寄ってくる。そして、

どこかへ案内するかのようになり、ゆっくりと前を泳ぐ。大きな甲羅を横に見ながら、しばらく一緒に泳いでいたら、急浮上していった。海の底から仰ぎ見る海面の色の美しさは筆舌に尽くしがたい。そこにアオウミガメのシルエットがくっきりと浮かび、夢を見ているかのような光景だった。

海面に顔を出し、息継ぎをした後、アオウミガメが戻って来た。再び、一緒に海底探検だ。大きな岩の向こうには、ツノダシやアオブダイ、ツバメウオなどが



不意に現れたアオウミガメ



息継ぎのため浮上 Yakushima May 2016